

(続) 心配しています 保護者の皆様ご存じですか

NO.19のお便りに続いて、の内容となります。

最近のゲーム事情や、小学生でさえスマホ等の端末を当たり前のように操作できる状況に、とても追いつけないわたしのような者には、驚かされることばかりの現状です。いま子どもたちが夢中でやっているオンラインゲームのなかには、課金されたカードから一定の金額を振り込むと、そのゲームで優位に立てるアイテムが手に入ったり、ポイントが上がったりするシステムがあるのだそうです。余談ですが、このように魅力的な商法を次々と考え出すエンジニアの頭脳のすばらしさには、本当に頭が下がります。

例えば、分別ある大人が仕事のストレスを癒やす娯楽であれば、共感できます。しかし、子どもがかかわってくるとなると、放置してはけません。そこは子どもなのですから、歯止めがかけられず、気がついたら後戻りできない状況に陥る心配があって当然です。しかも、カード決済は子どもにもできて、現金が動くわけではないのですから、金銭感覚もマヒしがちですし、周囲の大人にもまったく見えないところで取り返しのつかないトラブルが起こり得る怖さが伴います。

お家の皆様は、こういったシステムについてご存じでしたか。わたしは、まったく知りませんでした。学校職員もほとんどがこのようなシステムの存在を知りませんでした。この先も、途絶えることなく、わたしたちを夢中にさせてくれる新たな楽しみが開発されることなのでしょう。そして、その怖さは見えにくくなるばかりで、子どもたちばかりか大人でさえも、そこにはまりこむことが容易になっていくのだと思います。

今後の社会で、これらICTを切り離して生活していくことは、もはや不可能です。むしろ子どもたちには、それらに親しみ、正しく活用していく力が求められています。そうであるとする、わたしたち大人に求められることは、子どもたちに「好き放題」させず、オンラインの中での正しいルール（よさと怖さ・危険性など）をしっかりと教えていくことなのではないでしょうか。子どもさんのやっていることに関心を持ち、不思議に感じたときには質問を繰り返し、説明を求める。そして、納得できないことを許さない、「見えにくくなってしまったこと」を見る努力をすること、なのではないかと思うのです。いかがでしょうか。

作品展出展・入賞おめでとう

またもや多くの皆さんに賞状をお渡しすることができました。ご家庭におかれましても大いにほめて、大いにともに喜んでください。次のがんばりにつながることと思います。本当にうれしいですね。

【JA共催小・中学生第62回書道コンクール入選】

5年 森山 紗菜 さん

【東筑摩塩尻美術展】

1年 小島あかり さん 2年 中村 隼人 さん

3年 飯森 海 さん 4年 宮下 若奈 さん

5年 高野 福 さん 6年 塚原 玲樹 さん

【北部地区書写展】

1年 臼井 晴香 さん

1年 岩永 康介 さん

2年 塚原 尊 さん

2年 高野真まる さん

3年 久保田こはるさん

3年 田中 真志 さん

4年 佐藤 匠駿 さん

4年 平田 瑛路 さん

5年 臼井 喜音 さん

5年 平林 心羽 さん

6年 飯森 槿 さん

6年 柳澤 颯人 さん

【北部支会巡回展】

1年 渡邊 楓花 さん

2年 渡邊 花音 さん

2年 池田レニックス俊馬さん

3年 渡邊 葵 さん

3年 峯村 美蘭 さん

4年 佐藤 蒔倅 さん

4年 和栗 夏大 さん

5年 桐山 華奈 さん

5年 高野 翔 さん

6年 塚原 玲樹 さん

6年 鈴木 梨菜 さん



保護者懇談会ありがとうございました

子どもさんの学校生活での様子について、また学習の取り組み状況について、十分お伝えすることができたでしょうか。さらに詳しく聞きたい、心配なことが出てきた、など今後も、お気軽に学校にお話しくださるようお願いいたします。